

■コーディネーター・パネリストプロフィール

<p>高尾 忠志 (たかお ただし) コーディネーター</p> <p>1977年生まれ。東京大学景観研究室修了後、(株)アトリエ74建築都市計画研究所、九州大学景観研究室、九州大学持続可能な社会のための決断科学センター准教授を経て、2020年度より同センター特任准教授。2013年度より長崎市の公共事業全体のデザイン監修と職員育成を行うインハウス・スーパーバイザー (ISV: 庁内監修者)「長崎市景観専門監」に就任。2020年4月に「一般社団法人地域力創造デザインセンター」を設立して代表理事に就任。学、官、民のそれぞれの立場から各地のまちづくりに関わる。</p>	
<p>姫野 由香 (ひめの ゆか) パネリスト</p> <p>1975年大分県生まれ。大分大学工学部助教。博士(工学)。専門は建築・都市計画。主に特定地域の再生や文化的景観の維持・活用への住民参画、離島や中山間地域における地域運営の持続可能性に関して研究。県内外の調査やプロジェクトをとおして、行政や住民の方々とも連携を深める。著書に「住み継がれる集落をつくる」(共著: 学生出版社)、「地域資源を活かした市民活動とまちづくり」(共著: 樺歌書房) ほか。</p>	
<p>柴田 久 (しばた ひさし) パネリスト</p> <p>1970年福岡県生まれ。2001年東京工業大学大学院情報環境学専攻博士課程修了。博士(工学)。カリフォルニア大学バークレー校客員研究員等を経て2014年4月より現職の福岡大学工学部社会デザイン工学科教授。専門は景観設計、公共空間のデザイン、まちづくり。福岡市の警固公園、大分県昭和通り等のデザインに携わりグッドデザイン賞、土木学会デザイン賞等受賞多数。著書に『地方都市を公共空間から再生する: 日常のにぎわいをうむデザインとマネジメント』『土木の仕事ガイドブック』(共に学芸出版社)など。</p>	
<p>米澤 陽子 (よねざわ ようこ) パネリスト</p> <p>1959年石川県生まれ、福井県育ち。関西の大学に進学し、大学卒業後は広告関係の仕事などに従事。都会での生活に違和感を覚え始め、単身で約1年間の世界一周の旅に出る。帰国後、1988年に初めて九州大分を訪れ、そこで自然のダイナミックさに感激。山を開墾し、1991年には豊後大野市に移住して自給自足の暮らしを始める。2014年にタオ・オーガニック・キッチンを設立し、地元の有機栽培や自然栽培の農産物を使ったシロップや焼き菓子などの加工品を製造販売している。</p>	
<p>下村 亮介 (しもむら りょうすけ) パネリスト</p> <p>1973年杵築市生まれ。大学時代は関西で過ごし、その後も家業の時計店を継ぐため、関西で修行を行い、1999年に杵築市へ戻る。城下町地区で発足したまちづくり協議会の会長として景観整備や賑わいづくりの創出を目的に様々な事業を展開。その後、2019年にまちづくり協議会から地元有志で「まちづくり雪笹(株)」を設立(移行)し、これまでの豊富な活動経験を活かして商店街の空地・空店舗対策やイベントの維持・創出、景観整備等に精力的に取り組んでいる。</p>	